



臨床ストレス応答学会

The Biomedical Society for Stress Response

BSSR NEWS LETTER No. 8

2013.9.1

第7回臨床ストレス応答学会大会報告

第7回大会長 野村 馨（東京女子医科大学総合診療科教授）

第7回大会を平成24年11月24日25日の2日間、東京新宿区の東京女子医科大学弥生記念講堂で開催した。大会の開催に当たっては基礎と臨床の交流を図る、新規参加者を誘致するなどを意識してプログラムを作成した。参加者は63名（内大学院生15名）でした。今までの大会より若干増えましたが、期待したほどではありませんでした。プログラム自体は学会のリーダー、若手研究者による特別講演2題、新規会員による臨床主体の公開講座、話題性豊かなランチョンセミナー、学会新企画の「若手研究奨励賞」などあり自画自賛となりますが大いに盛り上がった。

永田和宏先生（京都産業大学総合生命科学部学部長・教授）は本学会の前身である臨床ストレスタンパク質研究会の第一回目の大会（平成8年11月、東京女子医大）で特別講演「ストレス応答：基礎から臨床へ」で本会の意義を指し示す記念すべき講演をしていただいた。その後も本会のリーダーであり、今回は特別講演Ⅰ「タンパク質品質管理機構から細胞内恒常性維持機構へ」をお願いした。ストレス応答から細胞の基本的な機能を担う機構について解説しさらに新たに見出された因子（EDEME, ERdj5, mysterin）について報告された。タンパク質の誕生から成熟までの過程を解明するまさに王道を行く研究であり、この学会の担う領域の広範なこと、重要なことを明示された。特別研究Ⅱでは若手で国外にて活躍しておられる研究者として浦野文彦先生（ワシントン大学医学部）に「Human Endoplasmic Reticulum Disease: from causality to cure」をお願いした。取り上げられたのは Wolfram 症候群である。インスリン依存型糖尿病、視神経萎縮、神経変性を起こす常染色体劣性遺伝性疾患である。WFS1 遺伝子の異常と小胞体ストレスについて概説し、さらにこの難病の子供たちを治療するクリニック開設について報告し、参加者に深い感銘を与えた。

この学会の目的である基礎と臨床の交流に寄与するように公開シンポジウム「よくある疾患における細胞ストレス研究最前線」を開催した。座長の橋本悦子先生（東京女子医科大学消化器内科教授）のもと、野口範子先生（同志社大学生命科学部教授）「コレステロール代謝と細胞ストレス」、徳重克年先生（東京女子医科大学消化器内科准教授）「脂肪肝の

The Biomedical Society for Stress Response

進展：遺伝的バックグラウンドと細胞ストレスの関与」、正田純一先生（筑波大学大学院人間総合科学研究科教授）「肝病態における転写因子 Nrf2 の演じる生体防御機構」、内藤裕二先生（京都府立医大消化器内科准教授）「大腸癌予防と熱ショックタンパク質」の講演が行われた。臨床現場でどのような問題が起きているか、そしてどのような研究を目指しているかとの報告は基礎研究者にとっても参考になるものと感じさせた。

ランチョンセミナーでは水島徹先生（慶応義塾大学薬学部教授）が「薬剤性肺線維症の解明とその治療法の確立」の講演をおこなった。種々の薬物により肺線維症という治療が困難な副作用が起きている。動物モデルを作成し、発病の分子機構の解明、既存薬による治療効果（効能拡大）など幅広い研究活動が提示された。

一般講演は24日の午前中に13演題が口頭発表で行われた。若手研究はポスター発表となり24日午後2時から4時半まで19演題が張り出され、活発な討議が行われた。ポスター発表は以前から提案されていたものであり、今回は若手研究奨励賞の開設を機会に採用した。内容も充実し、研究者同士の交流も盛んだった。鵜殿平一郎（岡山大学医学部教授）が選考委員長を務め若手研究奨励賞の選考が行われた。大会長は選考委員会のオブザーバーとした参加し、各選考委員の採点結果がほぼ同様であり、公平な審査であったことを確認した。

24日夕方6時から学内の佐藤記念食堂で懇親会が参加者40名で催された。始めに若手研究奨励賞の発表があり、大いに盛り上がり、参加者同士の交流を深めた。

若手研究奨励賞は2名で榊建二郎先生（東京女子医大第二生理学）「RNA 監査機構は小胞体機能の恒常性維持に必要である」と門脇寿枝先生（宮崎大医学部機能生化学）「新規小胞体品質管理システムの分子機構の解明」であった。御両人の受賞コメント（別記）をご参照いただきたい。

総会で次回は樋口京一先生（信州大学医学部）が大会長を務められることが報告された。伊藤英晃学会長、鳥越俊彦学会事務局、座長、プログラム委員の先生方のご協力、また東京女子医科大学総合診療科・公衆衛生学1・第一病理・内科2・クリニカルパス室の皆さんのご協力に感謝申し上げます。



臨床ストレス応答学会若手研究奨励賞

2012 年度第 1 回若手研究奨励賞は、鶴殿選考委員長をはじめとする 4 名の選考委員の厳正な審査のもと、以下の二名の先生が選ばれ、懇親会において授賞式が行われました。

- (1) 門脇 寿枝先生：宮崎大学医学部機能生化学
「新規小胞体品質管理システムの分子機構の解明」
- (2) 榎 建二郎先生：東京女子医科大学医学部第 2 生理学教室
「RNA 監査機構は小胞体機能の恒常性維持に必要である」

若手研究奨励賞受賞者の言葉

「若手研究奨励賞をいただきまして」

宮崎大学 医学部 機能生化学 門脇 寿枝

この度は、第 1 回目となる若手研究奨励賞をいただいて大変光栄に存じます。発表に際し、貴重なご意見をいただいた先生方にお礼申し上げます。本研究は、出産育児のブランクもあり、周囲の支えなしでは決して続けられなかったと思っております。とくに研究を続ける機会を頂いた東京大学一條秀憲先生、現在に至るまでご指導いただいております西頭英起先生をはじめ、これまでご支援いただいた皆様に深謝申し上げます。今後もこの賞に恥じぬよう日々精進し、詳細な分子機構を解明していきたいと思う次第です。最後になりましたが、このような大変有意義な学会に参加させていただきましたこと、本大会長である野村馨先生、学会長である伊藤英晃先生に深くお礼申し上げます。

抱負

探究心とセンスを大切に、未知の生命現象とそこに登場する分子をみつけていけたらと思います。そして、面白いことを仲間と共有できる研究スタイルを築いていきたいです。

略歴

2005 年 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科博士課程修了，博士（学術）。

2005-2008 年 日本学術振興会 特別研究員（PD）。

2008 年 東京大学大学院薬学系研究科 技術補佐員。同年 5 ヶ月間 出産育児。

2009 年 東京大学大学院薬学系研究科 技術補佐員。同年 同大 特任研究員。

2012 年 宮崎大学医学部 研究員。現在 同大 助教。

研究テーマ

小胞体品質管理におけるタンパク質分解の分子機構の解明

「臨床ストレス応答学会 若手研究奨励賞を受賞して」

東京女子医科大学 医学部 第2生理学教室 榊 建二郎

この度は、若手研究奨励賞という栄えある賞に選んで頂き、誠に有り難うございました。今回の年会では、小胞体機能の恒常性維持に RNA 品質管理機構でありますナンセンス変異依存 RNA 分解 (NMD) が重要な働きを担うという内容で、発表させて頂きました。大学院時代から細胞のストレス応答や細胞内品質管理に興味を持って研究に取り組んで参りましたが、このような形で評価を賜りましたことを、大変光栄に感じておりますと共に、今後の研究に向けて身の引き締まる思いです。

今回の研究成果では、NMD が小胞体機能の恒常性維持に必須であり、その破綻が強い小胞体ストレスを誘起する一方で、小胞体ストレスに対しては NMD の律速因子である SMG6 や RNA 分解に関わるエキソソームの構成因子が発現誘導されることを示し、小胞体品質管理機構と NMD との間にクロストーク機構が存在することを示唆しました。小胞体品質管理機構は、糖尿病や神経変性疾患を含む様々な疾患との関連性が広く知られております。一方で、NMD につきましては昨今の研究報告から、NMD 障害が一部の遺伝疾患における発症に対する抑圧効果を示したり、腫瘍免疫応答の効率化が認められたり、疾患治療への応用に向けた可能性が示されております。しかしながら、私共の知見は単純な NMD 障害が小胞体ストレスに起因する様々な副作用を誘起する可能性を示唆するものであり、特に小胞体ストレス関連疾患の保因者については十分な注意が必要であることを示唆します。現在、NMD 障害による小胞体ストレス発生を緩和する手法の開発を進めておりまして、将来的には NMD 障害の生理的影響や抑圧遺伝子の効果について、疾患モデルマウスを用いて検証を行い、より理想的な NMD 障害の臨床応用に繋がる情報を発信していければと考えております。今後も臨床ストレス応答学会に参加させて頂き、より多くの先生方からのご指導を賜りつつ、一緒にお仕事をさせて頂くことができれば幸甚に思います。

研究略歴

平成10年 九州大学理学部生物学学科卒業

卒業研究では三原勝芳先生（九州大学医学府）の研究室で阪口雅郎先生（現・兵庫県立大）のご指導のもと、ウサギ網状赤血球抽出液中に含まれる生体膜破壊因子の存在を明らかにし、その解析に取り組みました

平成15年 九州大学大学院医学府分子生命科学系専攻博士課程修了 博士（理学）取得

大学院時代は三原勝芳先生の研究室で、久原哲・田代康介両先生（九州大学農学府）との共同研究のもと、マイクロアレイ解析を用いた出芽酵母におけるミトコンドリア機能障害に対する細胞応答に関する研究に取り組みました。

平成16年 米国ミシガン大学医学部生物化学部門 博士研究員

森和俊先生（京都大）のご紹介のもと、ミシガン大学の Randal J. Kaufman 教授の研究室で博士研究員として勤務し、小胞体ストレスにおけるオートファジー誘導に関する研究や、肝特異的な新規小胞体ストレス応答制御因子 CREBH の解析など、様々な研究に取り組みました。

平成20年 東京女子医科大学医学部第2生理学教室 助教

平成21年より現職

現所属の三谷昌平教授のもとで、今回受賞対象となりました小胞体品質管理機構と RNA 品質管理機構のクロストークに関する研究に取り組んでおります。

第 8 回臨床ストレス応答学会大会のご案内

第 8 回大会長 樋口 京一

信州大学医学系研究科疾患予防医科学系加齢生物学・教授

この度、平成 25 年 11 月 15 日(金)、16 日(土)に、第 8 回臨床ストレス応答学会大会が松本市で開催される運びとなりました。大会会場は信州大学医学部附属病院大会議室をメイン会場に、周りの研修室をポスター会場に使用する予定です。

臨床ストレス応答学会は、生体の様々なストレス応答の分子機構の理解と臨床への応用を目的として 1996 年に立ち上げられた臨床ストレス蛋白質研究会が、より広範なストレス応答を対象とし、より多くの基礎および臨床研究者、医療および社会への応用を目指す方々の学術交流の場を目指して 2006 年に学会へと発展したものです。私は研究会の時代に永田和宏先生に誘われて、参加させていただき、今回は長野県松本での開催のお世話をさせていただく事になりました。個体や細胞へ負荷される様々なストレス刺激への適切な応答は、生体機能の恒常性の維持に不可欠であり、その異常が多くの疾患の原因となっています。とりわけ、老化に伴う多くの疾患がストレス応答の破綻に基づいていることが明らかになり、本格的高齢化社会を迎えている今日、ストレス応答のしくみを解明し、それを制御することは、健康長寿社会構築への重要な方法であると期待されています。このような状況の中で、健康長寿長野県の松本市で臨床ストレス応答学会が開催されることは感慨深く、加齢疾患でのストレスが果たす重要性を全国へアピールする好機だと考えております。本大会が盛会となります様、運営に最善を尽くす覚悟です。本大会では特別講演として京都大学の森和俊先生と東京都医学総合研究所の田中啓二先生に最新の研究成果と、ストレス応答への思いを語っていただこうと思っています。また「細胞ストレス応答の分子機構と疾患病態」と「アミロイドーシスとストレス応答」の 2 つのシンポジウムを企画いたしました。さらに、昨年度から設けられました若手研究奨励賞の選考も実施いたします。

信州への訪問には 11 月中旬は絶好の時期と思います。最新の研究成果の発表と討論、また研究者との交流に奮闘された後には、まだ寒過ぎず、紅葉真っ盛り、ワインの新酒、新蕎麦や様々な秋の味覚、かーんと抜けるような高原の青空と、星空を眺めながらの温泉など、信州の晩秋を楽しんでいただければと思います。

たくさんの皆様の参加を心よりお待ちしております。

会期： 2013 年 11 月 15 日(金)、16 日(土)

会場： 信州大学医学部附属病院大会議室、研修室

〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1 Tel: 0263-35-4600

39 歳以下の若手研究者による優れた研究を表彰し奨励する目的で、「臨床ストレス応答学会若手研究奨励賞」を選考いたします。詳細は演題申込方法をご覧ください。

また、下記の特別講演 2 題、シンポジウム 2 テーマ、ランチョンセミナーを予定しています。

特別講演(I) 11 月 15 日午後

森 和俊先生 (京都大学大学院理学研究科生物科学専攻生物物理学教室・ゲノム情報分野)

「小胞体ストレスの解析—薬物惹起から生理・病理へ」

特別講演(II) 11 月 16 日午前

田中 啓二先生 (東京都医学総合研究所)

「ミトコンドリアストレスとユビキチン・プロテアソームシステム」

シンポジウム(I) 11 月 15 日午後 「細胞ストレス応答の分子機構と疾患病態」

北村 正敬先生 (山梨大学大学院医学工学総合研究部分子情報伝達学講座)

「小胞体ストレスによる細胞のリプログラミングと分化誘導 ～糸球体傷害をモデルにして～」

豊國 伸哉先生 (名古屋大学大学院医学系研究科病理病態学講座生体反応病理学)

「酸化ストレスによる発がん機構の解明」

上條 義一郎先生 (信州大学医学系研究科疾患予防医科学系専攻スポーツ医科学)

「暑熱馴化による血液量増加は熱中症を予防する」

シンポジウム(II) 11 月 16 日午後 「アミロイドーシスとストレス応答」

関島 良樹 (信州大学医学部内科学 (脳神経内科, リウマチ・膠原病内科))

「小胞体関連分解によるトランスサイレチンアミロイドーシスに対する自己防御機構と病態に基づいた新規治療法の開発」

小澤 大作先生 (福井大学テニユアトラック推進本部)

「細胞外シャペロンによるアミロイド線維形成抑制機構の解明」

小野 賢二郎先生 (金沢大学附属病院神経内科)

「フェノール化合物に焦点をあてたアルツハイマー病の予防・治療薬開発」

長谷川 成人先生 (東京都医学総合研究所 認知症・高次脳機能研究分野)

「神経変性疾患の細胞病理を形成する蛋白質のプリオン様特性」

カネカ共催ランチョンセミナー 11 月 15 日

樋口 京一 (信州大学医学系研究科疾患予防医科学系加齢生物学)

「還元型コエンザイム Q10 (Ubiquinol-10) の老化抑制効果の検討とその作用機構の解明」

大会参加費： 一般 5000円、学生 2000円（会場受付にてお支払い下さい）

事前参加申込方法：

参加登録は大会ホームページから登録してください。

事前参加申込締切：2013年9月30日

演題申込方法：

本学会の一般演題発表者としてのお申込みは、一人一題に限られます。ただし、他の演題の共著者になることは差し支えありません。また、発表者は本学会員に限ります。申込みには学会入会と事前参加登録が必要です。

演題申し込み要領は下記大会ホームページをご覧ください。

<http://web.sapmed.ac.jp/bssr/>

演題申込締切：2013年9月20日 正午

若手研究奨励賞について：

臨床ストレス応答学会では、若手研究者による優れた研究を表彰し奨励する目的で、「臨床ストレス応答学会若手研究奨励賞」を設けます。応募資格・応募方法・選考方法・授賞式に関する詳細は下記の通りです。

●応募資格：第8回臨床ストレス応答学会大会当日(2013年11月15日)において、39歳以下の若手研究者。

●応募方法：演題応募時、抄録ファイルに「若手研究奨励賞に応募する」と記載すること。

●選考方法：若手奨励賞への応募演題は大会1日目(11月15日)に口演(午前)およびポスター形式(午後)でご発表いただきます。抄録と発表内容を4名の選考委員が審査し、2名程度の受賞者を選出します。

●授賞式：大会1日目(11月15日)の懇親会において、大会長より賞状並びに副賞(賞金)が授与されます。

若手研究奨励賞選考委員長 鵜殿 平一郎(岡山大学大学院腫瘍制御学講座教授)

大会事務局：第8回臨床ストレス応答学会大会事務局

〒390-8621 松本市旭 3-1-1

信州大学医学系研究科疾患予防医科学系加齢生物学講座内

Tel: 0263-37-2693, Fax: 0263-37-3428

E-mail: agebiogm@shinshu-u.ac.jp

The Biomedical Society for Stress Response

共催：

信州大学大学院医学系研究科

信州大学大学院医学系研究科疾患予防医科学系専攻

信州大学医学部附属病院先端予防医療センター

(財) 信州医学振興会

大会実行委員：

委員長： 樋口京一（信州大学大学院医学系研究科）

組織委員： 青江知彦（千葉大学医学部）
天野直二（信州大学医学部）
池田修一（信州大学医学部）
伊藤英晃（秋田大学大学院工学資源研究科）
野村 馨（東京女子医科大学医学部）
森 政之（信州大学大学院医学系研究科）

プログラム委員： 海野けい子（静岡県立大学薬学部）
新藤隆行（信州大学大学院医学系研究科）
鳥越俊彦（札幌医科大学医学部）
上條義一郎（信州大学大学院医学系研究科）
六反一仁（徳島大学医学部）

庶務委員： 澤下仁子（信州大学大学院医学系研究科）
上條千永子（信州大学大学院医学系研究科）

学会役員・幹事・評議員のお知らせ

学会役員（平成26年3月31日まで）

会長 伊藤 英晃（秋田大学大学院工学資源学研究科生命科学専攻教授）
副会長 六反 一仁（徳島大学医学部大学院生体制御医学教授）
総務 水島 徹（慶應義塾大学薬学部分析科学講座教授）
会計 樋口 京一（信州大学医学研究科加齢生物学教授）
監事 野村 馨（大月市立中央病院総合診療科）
アドバイザー 永田 和宏（京都産業大学総合生命科学部教授）
佐藤 昇志（札幌医科大学医学部病理学第一講座教授）

学会幹事

青江 知彦	千葉大学大学院医学研究院麻酔学
一條 秀憲	東京大学大学院薬学系研究科細胞情報学教室
伊藤 英晃	秋田大学大学院工学資源学研究科生命科学専攻
今泉 和則	広島大学大学院医歯薬保健学研究院基礎生命科学部門分子細胞情報学
鵜殿 平一郎	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻腫瘍制御学講座
大塚 健三	中部大学応用生物細胞ストレス生物学
親泊 政一	徳島大学疾患ゲノム研究センター生体機能分野
甲斐 広文	熊本大学大学院医学薬学研究部先端生命医療科学部門分子機能薬学講座
久保田広志	秋田大学大学院工学資源学研究科基礎生命化学講座細胞生物学
佐藤 昇志	札幌医科大学医学部病理学第一講座
佐野 元昭	慶應義塾大学医学部循環器内科
柴田 亮行	東京女子医科大学第一病理
祖父江 元	名古屋大学大学院医学系研究科脳神経病態制御
高橋 良輔	京都大学附属病院神経内科
鳥越 俊彦	札幌医科大学大学院分子免疫制御学
内木 宏延	福井大学医学部分子病理学
中井 彰	山口大学大学院医学系研究科医化学分野
永井 義隆	国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第四部
永田 和宏	京都産業大学総合生命科学部生命システム学科
野村 馨	大月市立中央病院総合診療科
原 勲	和歌山県立医科大学医学部泌尿器科学
樋口 京一	信州大学大学院医学研究科加齢適応医科学系加齢生物学
藤田 潤	京都大学医学研究科分子病診療学
堀 修	金沢大学医薬保健研究域医学系神経分子標的学講座
馬嶋 秀行	鹿児島大学医歯学総合研究科腫瘍学講座顎顔面放射線学
松岡 雅人	東京女子医科大学衛生学公衆衛生（一）
水島 徹	慶應義塾大学薬学部分析科学講座
森 和俊	京都大学大学院理学研究科生物科学専攻生物物理学
山本 雄造	秋田大学医学系研究科消化器外科
養王田 正文	東京農工大学大学院工学府
六反 一仁	徳島大学医学部大学院生体制御医学
涌井 秀樹	秋田大学大学院工学資源学研究科生命科学専攻疾患生物学研究室

以上 32 名（五十音順）

The Biomedical Society for Stress Response

学会評議員

青江 知彦	千葉大学大学院医学研究院麻醉学
一條 秀憲	東京大学大学院薬学系研究科細胞情報学教室
伊藤 英晃	秋田大学大学院工学資源学研究科生命科学専攻
今泉 和則	広島大学大学院医歯薬保健学研究院基礎生命科学部門分子細胞情報学
岩坂 日出男	大分大学医学部脳・神経機能統御講座 麻醉学
鶴殿 平一郎	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻腫瘍制御学講座
大塚 健三	中部大学応用生物学部
親泊 政一	徳島大学疾患ゲノム研究センター 生体機能分野
小山田 正人	藤女子大学人間生活学部 食物栄養学科
甲斐 広文	熊本大学大学院医学薬学研究部先端生命医療科学部門分子機能薬学講座
金子 清俊	東京医科大学医学部神経生理学講座
木村 洋子	東京都臨床医学総合研究所腫瘍細胞研究部門
久保田広志	秋田大学工学資源学部生命化学科
桑田 一夫	岐阜大学人獣感染防御研究センター
高後 裕	旭川医科大学第三内科
小亀 浩市	国立循環器病研究センター 分子病態部
後藤 知己	熊本大学大学院医学薬学研究部分子遺伝学分野
小林 正伸	北海道医療大学看護福祉学部生命基礎科学講座
小林 良二	香川大学医学部生体情報分子学
小安 重夫	慶應義塾大学医学部
笹栗 靖之	産業医科大学第二病理学
佐藤 昇志	札幌医科大学医学部病理学第一講座
佐野 元昭	慶應義塾大学医学部循環器内科
佐原 弘益	麻布大学獣医学部生物学
柴田 亮行	東京女子医科大学第一病理
関山 敦生	大阪市立大学医学部大学院 生化学・分子病態学教室
祖父江 元	名古屋大学大学院医学系研究科脳神経病態制御
高橋 良輔	京都大学附属病院神経内科
田中 啓二	東京都臨床医学総合研究所
田村 保明	札幌医科大学医学部病理学第一講座
田村 裕	千葉大学大学院生命情報科学
千葉 進	札幌山の上病院神経内科臨床脳神経研究施設
徳永 文稔	大阪市立大学大学院医学研究科分子制御分野
鳥越 俊彦	札幌医科大学大学院分子免疫制御学
内木 宏延	福井大学医学部分子病理学
中井 彰	山口大学大学院医学系研究科 医化学分野
永井 義隆	国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第四部

The Biomedical Society for Stress Response

永田 和宏	京都産業大学総合生命科学部生命システム学科
根本 孝幸	長崎大学医歯薬口腔分子生化学
野村 馨	大月市立中央病院総合診療科
原 勲	和歌山県立医科大学医学部泌尿器科学教室
樋口 京一	信州大学大学院医学研究科加齢適応医科学系加齢生物学分野
久枝 一	九州大学医学研究院感染免疫熱帯医学分野
平田 公一	札幌医科大学医学部消化器・総合、乳腺・内分泌外科
藤木 幸夫	九州大学大学院理学研究院生物科学部門
藤田 潤	京都大学医学研究科分子病診療学
堀 修	金沢大学医薬保健研究域医学系 神経分子標的学講座
堀 清次	京都大学大学院生命科学研究所高次生体統御学分野
馬嶋 秀行	鹿児島大学医歯学総合研究科腫瘍学講座顎顔面放射線学
増本 純也	信州大学医学部病理組織学講座
松岡 雅人	東京女子医科大学衛生学公衆衛生（一）
三浦 哲嗣	札幌医科大学医学部内科学第二講座
水島 徹	慶應義塾大学薬学部分析科学講座
森 和俊	京都大学大学院理学研究科生物科学専攻生物物理学教室・ゲノム情報分野
山田 健人	慶應義塾大学医学部病理学教室
山本 雄造	秋田大学医学系研究科消化器外科
養王田 正文	東京農工大学大学院工学府
横田 伸一	札幌医科大学医学部微生物学講座
吉田 賢右	京都産業大学工学部生物工学科
吉森 保	大阪大学微生物病研究所
六反 一仁	徳島大学医学部大学院生体制御医学
涌井 秀樹	秋田大学大学院工学資源学研究科生命科学専攻疾患生物学的研究室
和田 郁夫	福島県立医科大学医学部附属生体情報伝達研究所細胞科学研究部門

以上63名（五十音順）

事務局からの連絡

入会手続き

学会ホームページから「入会申込書」をコピーし、必要事項をご記入の上、
BSSR 事務局まで FAX(011-643-2310)または電子メール(BSSR@sapmed.ac.jp)にてお
送り下さい。

年会費： 一般会員 5,000 円、学生会員 3,000 円、企業賛助会員 50,000 円
以下の郵便口座へお振込ください。

加入者名：臨床ストレス応答学会

口座番号：02730-3-64452

大会ポスターについて

第8回臨床ストレス応答学会大会のポスターを事務局に用意しております。できる
だけ多くの基礎・臨床研究者に参加していただくため、ポスターを配布して宣伝して
いただきますようお願い申し上げます。事務局まで必要枚数をお知らせ下さい。

BSSR 事務局

〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目

札幌医科大学医学部病理学第一講座内 鳥越俊彦

TEL: 011-611-2111 (内線 2691), FAX: 011-643-2310

E-mail: **BSSR@sapmed.ac.jp**

ホームページ: <http://web.sapmed.ac.jp/bssr/index.html>